

令和4年8月26日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開 会 時 間 9 時 3 0 分

2 閉 会 時 間 1 1 時 3 0 分

3 教 育 長 名 森 英夫

4 署 名 委 員 渡辺 優子

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏 名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	野谷 悦
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	藤原 直彦
○	教育委員	渡辺 優子

6 出席者氏名 教育部長 椎野 文彦
 教育総務課長 下條 博史
 教育総務課長代理 田中 明夫
 教育総務課指導班長 安藤 通晃
 教育総務課教育総務班長 大木 健司
 生涯学習課長生涯学習班長 加藤 庸介
 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

7 傍 聴 者 5 名

8 調 製 者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和4年度8月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 8月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事・班長) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(岡野委員・野谷委員) 市町村教育長・教育委員研究協議会の研修内容について説明する。

(岡野委員) 指導班長が最後に紹介してくださった先生方の研修は、とても良い内容でした。一步一步振り返りながら、次のステップへ進んでいくために、目標や目的、ねらい、思いを持って、次の学期をスタートさせていくことはとても大事なことです。

(教育長) 若手教員の人材育成について、集合研修が難しい今の情勢の中、学校で現場の先輩が後輩を育てることをしなければいけないのですが、中々難しい状況です。研修会では、学校というチームの一員で、できなくて当たり前なのだから、人に頼っていいんだよ、と講話をしました。若手の先生は、自分の思いを聞いてもらうことや周りの先生を頼ることが苦手なのかな、と感じました。また、保護者と話す機会があるときは、地域の保護者の皆さんも若い先生を育てるつもりで接してほしい、とお願いをしています。

(渡辺委員) 中地区教育長会議でのスクールロイヤーの改正については、神奈川県内の学校にスクールロイヤーを配置し、各市町村に出張してもらえるような体制で、二宮町にも関係する改正なのでしょうか。

(教育長) スクールロイヤーは、県に配置してあったため、今までは県立校だけしか対応できなかったのですが、小中学校の事案に対応する弁護士を配置していただけることになりました。学校を定期的に巡回するわけではなく、事案があったときに、相談が可能となりました。相談することによって、保護者対応で裁判沙汰になる前に、学校長が事前にどういう方向で話をすればいいのかななどを相談することで、安心して対応できるようになります。

4 付議事項

5 報告・協議事項

(1) 小中一貫教育アンケート結果について(速報)

(教育総務課長代理) 小中一貫教育アンケート結果について資料に基づいて説明。

(藤原委員) アンケート数 370 人ですが、下の％は回答数に対しての％なのか、％の意味をお願いします。不安の要素は分かりますが、楽しみにしている数と不安の数が分かりません。また、問 1 の楽しみにしているという回答数と、問 2 の不安に感じているという回答数は、楽しみの方を答えている人が多いのか、答えている数が多いのでしょうか。

(教育総務課長代理) 具体的な数は、後日示したいと思います。

(渡辺委員) 自由記載では、中学生から小学生へのメッセージに大変なこともあるけど、楽しいこともいっぱいあるよ、心配しなくていいよ、という記載もあり安心しました。ただ、勉強全般や教科別では、これをやっておいた方がいい、これもやっておけば良かったなどがあり、不安になりそうだなと思いました。中学生の声を伝えることは良いことですが、伝えるときは配慮をお願いします。

(教育総務課長代理) 生の声を伝えると思いますので、生徒会には、不安だけではなく、気持ちを向上させるような内容も加えるよう、事前に学校へ伝えます。

(野谷委員) 長年小学校教員をして、算数国語英語をしっかりと定着できないままに中学校に送りこんで、子どももそのことを不安に思っていると再認識しました。来年度から始まる分離型小中一貫教育の指針が出たように見えます。

教育委員になって、小中が隣同士の分離型小中一貫校を視察したことがあります。ある人が一緒に学校のように見えるけれど、先生方には見えない大きな壁がある、その壁は中々乗り越えられない、と言っていました。小学校と中学校の距離があることによる子どもたちの不安に寄り添って、解消することが分離型の第一歩だと思いました。

(岡野委員) 小学 5・6 年生からは中学生のことをもっと知りたい、中学 1 年生からは中学校のアドバイスをしたい、双方に伝え合いたいという小中一貫教育の一番の肝だと思います。また、中 1 ギャップを乗り越えるだけではなく、先の世界を見せることも大事になります。最近では、小中一貫教育の中学生と中高一貫教育の中学生はどう違うのかも話題になっています。小中一貫教育は基礎定着や次のステップへの土台になっていくので、次へ滑らかにつなぐ意味でもこういうことを順番に取り入れながら、対処していくのが必要なことだと感じました。

(藤原委員) アンケート方法は、chromebook ですか。

(教育総務課長代理) そうです、グーグルフォームで回答してもらいました。

(藤原委員) 9 年間のカリキュラムはすでに始められていますが、中学校に入って躓き、時間をかけてやらなくてはいけないと先生方が思っていたことを生徒もそう感じていることです。chromebook の活用を積極的にしていただき、機会を設けていただきたいと思います。

義務教育のニーズが外れている話がありましたが、最低限やらなければならないことは生徒の声からも得られているので、ICT 端末でやっていったらいいのではないかと思います。予算的には教科書と ICT 端末の両方があり、重複しています。しかし、教科書は

教科書でしかできない役割があり、ICT端末もICT端末でしかできない役割があるように、追加で必要なものなので、積極的に活用できればいいと思いました。前回議論した点検評価についても、生徒が満足した結果、教育委員会として嬉しいことを具体的にどういう項目にするか、すぐに思いつきませんが、今回のアンケートのようにchromebookのような生徒にすぐに伝えられる手段があるので、ポジティブに使っていただければと思いました。一色小の卒業後の分離の仕方は一旦保留となっていますが、今の小学生や保護者がどう思っているのか、全員にアンケートをすることのできる手段があることの気づきにもなり、今回のアンケートは非常に良い試みだったと思います。

(岡野委員) アンケートとはずれますが、小中一貫教育の乗り入れ授業では、中学校の先生が小学生を教えるという場面があると思います。全国の義務教育学校の中には、中学生と小学生が同じ授業を受けるということをしています。6年生と7年生の橋渡しをする意味で、同じ教室で一つの授業を体感するというやり方もあります。同じ空気を感じることやそういうシーンを増やすことも考えていただけたらと思います。

(藤原委員) 放課後子ども教室でプログラミングの講師をしたときは、4年生も6年生も基本的に同じ課題をやってもらいました。6年生のちょっと違うところを4年生が見たりしていましたが、同じ課題に取り組んでいることを子どもたちは感じているのだろうと思います。その気づきは面白く、教え合ったりもしていました。それでも学年の差による上下が出るかもしれませんが、同じものに取り組んでいて、別々の視点でやっているのもいいなと思いました。

(教育長) 同じ題材を取り組み、学年が近くても、発達段階によって、得るものが違うということですね。

(岡野委員) 捉え方、到達点、プロセスも違いますよね。

(藤原委員) そのようなときは、正解の無い問題がいいですね。

(岡野委員) そうですね。一本の橋の両端から動物が渡る「橋の上のおおかみ」という物語が小学校と中学校の道徳の教科書に載っています。小学校4年生のときに読んだ感想と中学2年生のときに読んだ感想は、違うはずです。同じ教材が載っているのは、多分そういうことだと思います。

(2) 教育講演会のアンケート結果について

(指導班長) 教育講演会のアンケート結果について資料に基づいて説明。

(藤原委員) どの所属の方の意見なのかが大事だと思います。理解が深まったのは、教職員なのか住民なのか、また、意味がなかったというのは誰がというより、どの所属なのかで対応すべきことを検討したいので、仕分けをお願いします。

(教育長) 学校教職員が、小中一貫教育について、知らなかったと書かれたことは、本当

にショックでした。年度初めに5校を周り職員全員の前でプレゼンしたにもかかわらず、知らないということはどういうことなのだろう、と思いました。

（野谷委員） おそらく分離型小中一貫教育について、十分に知らされていないことが知らなかった、という反応だと思います。

（渡辺委員） 小中一貫教育について、もっと議論が必要なのではないかと、いうところが今始まっているこの研究会の中で、こういった声をどのように組み込むかが課題だと思います。

ヤングケアラーについては、とても染みる内容で聴いてよかったです。先生方のアンケートでも、知ること、どう気づくのか、今まで接して来た子の中でもいたかもしれないという気づきにも繋がったと思います。今後、気づくケースが増えていったときに、先生としてどう働きかけるのか、保護者にどう働きかけるのか、どう対処していくのかが必要です。一方で、先生方にとって負担になり、気づいたけれど、声掛けする余裕がなかったことにならないような配慮を考えていく必要もあります。

（教育長） 福祉部門に繋げるための窓口として、学校の役割を果たしていくことが大事です。

（３）コミュニティ・スクールの運営状況について

（教育総務課長） コミュニティ・スクールの運営状況について資料に基づいて説明。

（岡野委員） 学校運営協議会が学校長の方針を承認する機能もあると思いますが、そのプロセスはどうやっていますか。

（教育総務課長） 学校運営協議会の年度の1回目に、学校長が学校グランドデザインを示しながら、今年度の学校の方針を説明し、承認を頂く形が多いです。また、学校の予算も一緒に説明をしています。

（岡野委員） グランドデザインを実現するための過程はどうなっているのでしょうか。

（教育総務課長） 学校長が示したグランドデザインを承認していただいた後、どういう部会を作って、どういう活動をしていくのか、話し合いをしています。

（岡野委員） 着実に取り組んでいただくようお願いします。

（教育総務課長） 学校運営協議会は地域と学校が連携して何かをする場という意識が根強く、地域と学校が共同で学校運営方針を決めるのが学校運営協議会だということが、疎かになっているのかもしれませんが、ただ、地域学校協働活動と学校運営協議会の両方に参画している方もいるので、役割分担を決めすぎると分解してしまう難しさもあります。

（藤原委員） 三鷹市への視察の際、二宮中の校長先生と「二宮小と二宮中は人材バンクや人材活用は同じなので、地域の人材を掘り起こして、地域の人とどう触れ合うかの検討を一緒にしてもいいのではないかと話しました。地域学校運営協議会は、地域の人を招

く組織ということになっています。しかし、人材と運営の話は別もので、人材は地区長がいるとうまくいくのか、学校運営はOBのように分かっている人がいいのか。コミュニティ・スクールとしての地域連携は、エリアを一体化して考え、学校運営への関与の仕方とは分けて考えた方がやりやすいのかもしれない。

（教育総務課長） 学校には、どうしても譲れないがんじがらめの部分があり、それを理解できる方でない、どうして学校は固いんだ、と思ってしまう方もいます。実際に学校の置かれている状況を理解していただく意味でも分かっている方に入っていただくのもいいと思う反面、そこでこじれてしまうと物事が進まなくなる危険があります。

（教育長） ある自治体では、大学生などの学校の卒業生を入れているということを聞いたことがあります。そうすることで、校則や子どもたちに直結した話題になるのかと思います。

（５）その他

（教育部長） 体育祭の中止について資料に基づいて説明。

－ 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長） 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

傍聴者退席

４ 付議事項

（１）議案第１１号 令和４年度二宮町一般会計補正予算（第４号補正）について

－ 非公開 －

５ 報告・協議事項

（４）教育相談および教育支援室の状況について

－ 非公開 －

11 時 30 分 閉会